

# コンクリートカッター

# MCD-L12

# MCD-L14

## 取扱説明書



三笠コンクリートカッターをお買い上げいただきありがとうございます。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



三笠産業株式会社

601-02011

## 目 次

1	はじめに -----	1
2	機械の用途と警告、及び動力伝達 -----	1
3	警告サイン -----	2
4	安全のための注意事項 -----	2
	4.1 一般的注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業中の注意事項	3
	4.6 リフティング時の注意事項	4
	4.7 運搬及び保管に関する注意事項	4
	4.8 整備上の注意事項	4
	4.9 ラベルの取付位置図	5
	4.10 警告ラベルの絵文字説明	6
5	外観図 -----	7
	5.1 外観寸法図	7
	5.2 コントロール装置位置及び装置名称	8
6	仕様 -----	9
	6.1 本体仕様	9
	6.2 エンジン仕様	9
7	運転前点検 -----	10
8	運転 -----	14
	8.1 始動	14
	8.2 作業	15
9	停止 -----	16
10	輸送 -----	16
	10.1 積み込み、積み下ろし	16
	10.2 運搬に関する注意事項	16
11	手入れと保存 -----	17
12	定期点検と調整 -----	18
13	トラブルシューティング -----	19

# 1. はじめに

- この取扱説明書は、コンクリートカッターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さい。**
- お読みになった後も**必ずお手元に保管**し、分からない事があった時には取り出してお読み下さい。
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照して下さい。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせ下さい。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/>の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用下さい。

**この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。**

## 2. 機械の用途と警告、及び構造と動力伝達

### 【用途】

ブレード軸にダイヤモンドブレードを装着し、コンクリート及びアスファルトの路面を切断する機械です。切削する深さに応じた機体で、コンクリートやアスファルトの材齢・コンクリート内の鉄筋の有無等、切削する状況に合わせたブレードを選択して使用します。

### 【誤用途、誤使用の警告】

無筋コンクリート、鉄筋コンクリート及びアスファルト以外の切断に使用してはいけません。土砂を切断してはいけません。土砂が飛散し外傷の危険があります。本機はダイヤモンドブレード専用で、原則として複数枚同時に使用することはできません。また、レジノイドブレードを使用してはいけません。必ず注水しながら切削して下さい。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。ブレードに合った回転数以上で使用してはいけません。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。機体が不安定な状態での使用及び不整地での使用は、ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生しますので使用してはいけません。コンクリート二次製品等の切断に使用しないで下さい。

### 【構造】

本体ベース上にエンジンが固定され、Vベルトで動力をベース下部のブレードシャフトに伝えます。ベルトの張り調整は、エンジンを前後にスライドさせる方式です。ベースにはベルトカバー、ガイドハンドル、ブレード昇降調整用のハンドル並びに脱着可能なブレードカバーが取り付けられています。切削深さの調整はブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取り付けたアームを起伏させて行います。走行は、本機を直接押す方式です。

### 【動力伝達】

原動機は4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンです。エンジン出力軸にはVプーリーが取り付けられており、Vベルトを介してブレード軸を駆動します。ブレード軸にブレードを取り付けて切削を行います。切削深さの調節はブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取り付けたアームを起伏させて行います。切削時の走行は、ハンドルを押して行います。

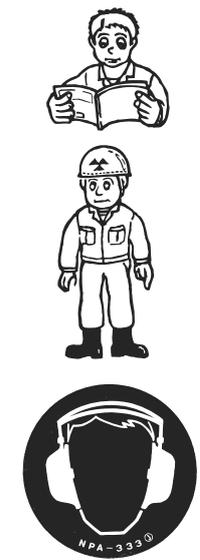
### 3. 警告サイン

本取扱説明書及び本機に貼り付けてあるラベルの⚠マークは警告サインです。安全上、必ず厳守して下さい。

⚠	人体に対する危険がある場合の警告サイン
⚠ 危険	指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が極めて高い場合
⚠ 警告	指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が有り得る場合
⚠ 注意	指示を守らないと、怪我や障害事故が生じる可能性がある場合
注意 (⚠マーク無し)	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

### 4. 安全のための注意事項

#### 4.1 一般的な注意事項

⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こんな時は作業をしない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○過労や病気等で体調が悪い時。</li> <li>○薬物を服用している時。</li> <li>○飲酒をした時。</li> </ul> </li> </ul>	
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>●取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行って下さい。</li> <li>●エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照して下さい。</li> <li>●機械の構造を充分理解して下さい。</li> <li>●作業を安全に行うために、防護具（ヘルメット、安全靴、耳栓等）を着用し、適切な作業服で作業して下さい。</li> <li>●常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転して下さい。</li> <li>●機体の貼付銘板（操作方法・警告銘板等）は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保って下さい。読みにくくなった場合は、新しい銘板に交換して下さい。</li> <li>●幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意して下さい。</li> <li>●整備する場合は必ずエンジンを停止させてから行って下さい。</li> <li>●改造や修正を加える事で発生した如何なる事故に関して、当社は一切責任を負いません。</li> </ul>	

#### 4.2 給油中の注意事項

⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料を給油する時 <ul style="list-style-type: none"> <li>○必ず換気の良い場所で行って下さい。</li> <li>○必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油して下さい。</li> <li>○周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意して下さい。こぼれたら良く拭き取って下さい。</li> <li>○給油中は絶対に火気を近付けないで下さい。（特にタバコを吸いながらの給油は厳禁）</li> </ul> </li> <li>●燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があります。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守って下さい。</li> <li>●給油後は、タンクキャップをしっかり締め込んで下さい。</li> </ul>	
------	---	---

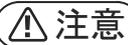
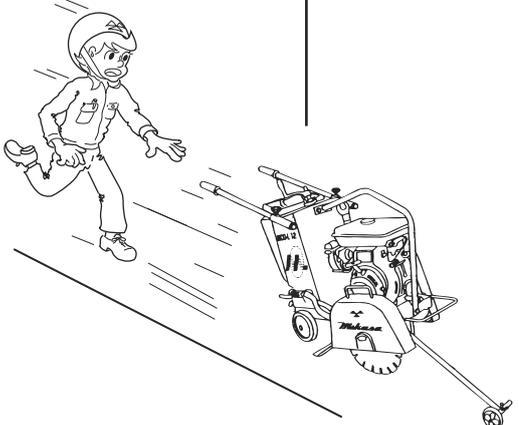
### 4.3 使用場所、換気に関する注意事項

 <b>危険</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないで下さい。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。</li> <li>●火気のある傍での運転はしないで下さい。</li> </ul>	
---	---	---

### 4.4 作業前の注意事項

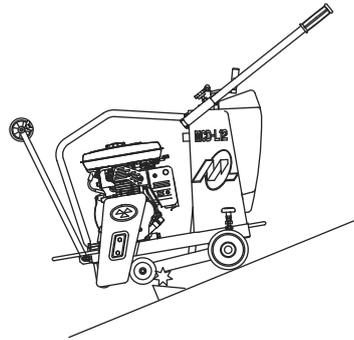
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各部分の締付具合を点検して下さい。振動でネジが緩んでいと思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けて下さい。</li> <li>●ダイヤモンドブレードにブレードチップの欠損や基板のひび割れ等の異常が無い事を確認して下さい。</li> <li>●3箇月以上エンジンを回していない場合は、油膜切れによる機体摺動部の焼き付きを防ぐ為に、低速で十分に暖気運転を行ってください。</li> </ul>	
---	---	--

### 4.5 作業中の注意事項

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●機械を始動したり作業する時は、周囲の人や障害物に対して安全である事を確認して下さい。</li> <li>●常に足場に注意し、機械のバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業して下さい。</li> <li>●エンジン本体、マフラーは高温になりますので、運転時及び運転直後等の熱い時には触れないように注意して下さい。</li> <li>●運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに本機を停止させ作業を中止して下さい。</li> <li>●ブレードが付いた状態でカッターを待機させないようにして下さい。やむを得ない事情で待機運転させる場合には低速で短時間行う事を心がけてください。</li> <li>●本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させて下さい。また本機を移動させる時もエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。</li> <li>●ブレードカバーは必ず装着してご使用下さい。</li> <li>●エンジン始動と同時にブレードが回転しますので充分気を付けて下さい。特に足等を近付けしないで下さい。</li> <li>●回転部(ベルトカバー内等)には手、服等を巻き込まれないように充分注意して下さい。</li> </ul>	
 <b>危険</b>	<p><b>傾斜地での注意事項</b></p> <p>本機を傾斜地で使用する場合、様々な危険が伴います。最低限下記の項目を厳守した上で、更なる安全確保に努めて下さい。安全を確保できない場合は絶対に使用しないで下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●傾斜地では本機を放置しないで下さい。万一本機が動き出すと重大な事故を引き起こす危険性があります。</li> <li>●傾斜地では、ハンドルをしっかり握り、決して本機から手を離さないで下さい。手を離れた瞬間に本機が自重で動き出し、重大な事故を引き起こす危険性があります。</li> <li>●ハンドルからグリップが抜けると本機が暴走する危険性がありますので十分に御注意下さい。</li> </ul>	

**⚠ 危険**

- 傾斜地で作業する際は、必ず本機に対し斜面の上側に位置し、斜面に対して本機が真っ直ぐ下を向くようにして作業を行って下さい。
- 本機は平坦な場所で停止させて下さい。止むを得ず本機を傾斜地に停止させる場合は、必ずエンジンを停止させた上で本機を真っ直ぐ下向きにし、安全確保のために前車輪に必ず輪止めをして下さい。前輪に輪止めをかけても、自動車に衝突されたり左右に揺すぶられたりしますと本機は輪止めを乗り越え動き出す可能性が高く大変危険ですので御注意下さい。後車輪には輪止めをしても効果がありません。また、**後輪の駐車ブレーキは本機の確実な固定を保証する物ではありません。** 停車の際は必ず前輪に輪止めを御使用下さい。



- 輪止めをする際、機体の前側には絶対に行かないで下さい。万一本機が動き出した場合、ブレードによる身体の切断や本機の衝突により大怪我や死亡に至る危険性があります。
- 輪止めをする際、ブレードが手に触れますと大怪我をする恐れがあり大変危険です。必ず本機のベルトカバー側から輪止めをして下さい。
- 停止の際、水タンクに水が入っていると重心が高くなりバランスが悪くなる為、前輪に輪止めをかけても前輪が輪止めを乗り越えて動き出し大変危険です。この場合必ず水タンクから水を抜いて下さい。
- 傾斜地において路面が濡れていますと、角度によっては輪止め自体が滑り効果が無くなります。止むを得ず傾斜地で停止させる場合は必ず乾いた路面に停止させて下さい。
- 傾斜地でのブレード取付取外し作業は危険ですので行わないで下さい。
- 斜面を横断するような作業は行わないで下さい。本機の転倒やブレードの破損等重大な事故を引き起こす恐れがあります。

#### 4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

**⚠ 危険**

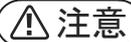
- 吊り上げ作業に対し、本機部品（特にフック・防振ゴム）の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認して下さい。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じて下さい。
- 強度の十分なワイヤーロープ等を使用して下さい。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所（ハンドル等）での吊り上げ作業はしないで下さい。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないで下さい。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。

## 4.7 運搬・保管に関する注意事項



- 運搬時はエンジンを停止させて下さい。
- エンジン及び機体がよく冷えてから運搬して下さい。
- 運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。
- 機体が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定して下さい。

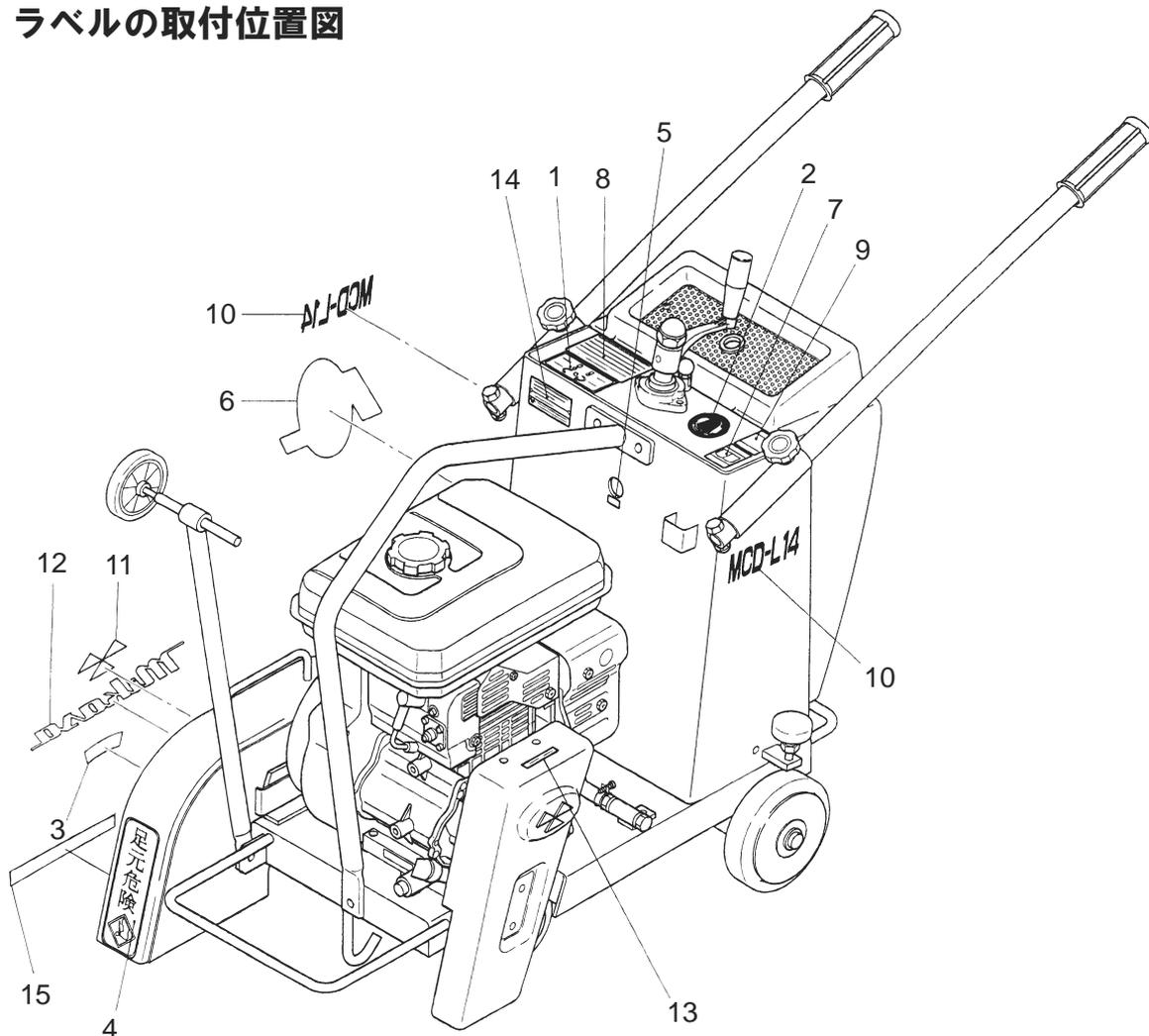
## 4.8 整備上の注意事項



- 安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。機体の状態を充分留意し、良好な状態を維持して下さい。特に、リフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
- 本機の温度が下がってから作業を行って下さい。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意して下さい。
- 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行って下さい。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行って下さい。特に、ボルト・ナットの点検は充分行って下さい。
- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照し、安全に作業を行って下さい。



## 4.9 ラベルの取付位置図



図番号	部品番号	名称	枚数	備考
1	9201-10070	銘板、操作説明図(昇降)/MCD-L12	1	
2	9202-03330	銘板、騒音保護防止	1	
3	9201-04980	銘板、回転方向	1	
4	9201-06980	銘板、足元危険/MCD-210	1	
5	9201-00120	銘板、グリース(貼)	1	
6	9201-09690	銘板、シンボルマーク/MCD-210V	2	
7	9201-08350	銘板、取扱説明書熟読(和文)	1	
8	9201-06630	銘板、取扱注意/MCD-210	1	
9	9201-08360	銘板、回転部接触禁止(和文)	1	
10	9201-10030	銘板、型式ロゴ/MCD-L12	2	L12
10	9201-10050	銘板、型式ロゴ/MCD-L14	2	L14
11	9202-10960	銘板、三笠マーク(白、40×80)	1	
12	9201-09560	銘板、Mikasa(250白)	1	
13	9202-09730	銘板、ベルトサイズ(RPF-3240)	1	L12
13	9202-09810	銘板、ベルトサイズ(3V-265)	1	L14
14	9202-12280	銘板、製番/MCD-L12	1	L12
14	9202-12290	銘板、製番/MCD-L14	1	L14
15	9202-10120	銘板、中型カッター用目盛(ブレードカバー)	1	

#### 4.10 警告ラベルの絵文字説明

No.2



- ・騒音による聴覚障害に注意  
本機運転中は、必ず耳栓やイヤーマフラーを着用して下さい。

No.4



- ・足元危険  
本機運転中は、足元に充分注意して下さい。足元をブレードに近付けないで下さい。

No.7



- ・取扱説明書熟読  
運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解して下さい。

No.9



- ・回転部接触禁止  
回転中のブレードやブレード、プーリー、Vベルトには絶対に手を触れないで下さい。ブレードカバーやベルトカバーを外しての運転はお止め下さい。

#### エンジン付属銘板



①火気厳禁

給油時は必ずエンジンを停止させて下さい。給油口に火気を近づけると火災の危険があります。

②排気ガス中毒に注意

排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。換気の悪い場所では運転しないで下さい。

③マフラー高温注意

マフラー及びその周辺に触れないで下さい。

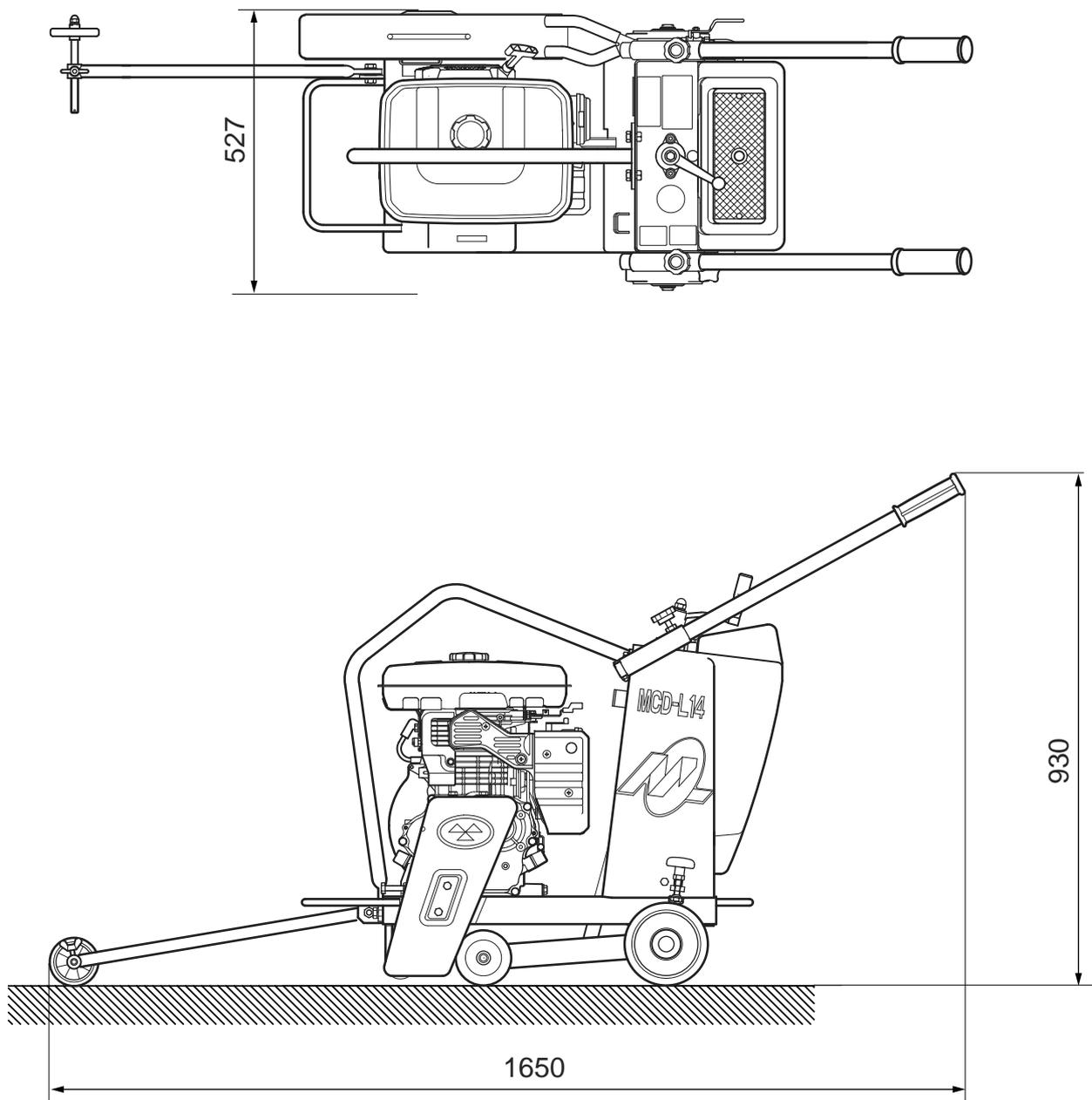
④取扱説明書熟読

安全の為、取扱説明書をよく読み使用して下さい。

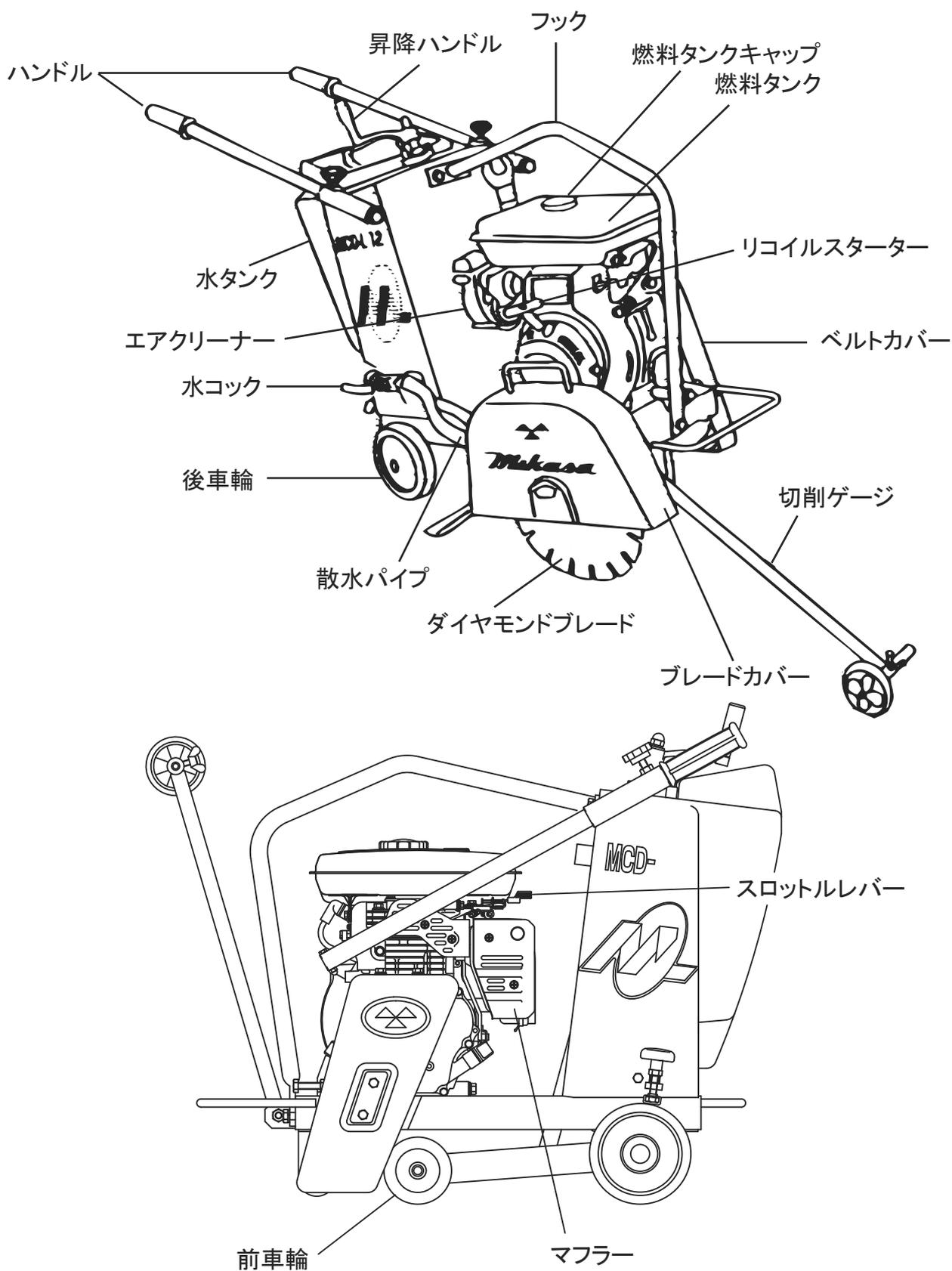
⑤燃料はガソリンを使用して下さい。

# 5. 外觀圖

## 5.1 外觀寸法圖 (mm)



## 5.2 コントロール装置位置及び装置名称



## 6. 仕様

### 6.1 本体

型 式	MCD-L12	MCD-L14
搭載エンジン	ロビン EH17-2D	ロビン EH25-2D
主 要 寸 法		
全 長		
切削ガイド、ハンドル伸長時	1,650mm	1,650mm
切削ガイド、ハンドル格納時	865mm	872mm
全 幅	527mm	527mm
全 高	930mm	930mm
機 械 質 量	75kg	86kg
走行方式	手押し式	
切削深度調節 (クランクハンドル)	手動スクリュー式	
冷却方式	重力注水飛散方式	
水タンク容量	26L	
使用ブレード及び最大切削深さ (ブレード軸径φ27)	最大切削深さ	最大切削深さ
使用ブレード寸法 (10in.)254mm	70mm	70mm
(12in.)305mm	95mm	95mm
(14in.)356mm	—	120mm
取付ブレード制限	12in. 以下	14in. 以下

### 6.2 エンジン

型 式	MCD-L12	MCD-L14
エンジン型式	ロビン EH17-2D	ロビン EH25-2D
最大出力	空冷 4 サイクルガソリンエンジン	
	3.7kW/3600min <sup>-1</sup> (5ps/3600rpm)	5.9kW/3600min <sup>-1</sup> (8ps/3600rpm)
燃料タンク容量	3.6L	6.0L

# 7. 運転前点検

## ⚠ 危険

エンジンが停止した状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。機体を水平にし、機体が動かない事を確認してから点検して下さい。

★ 作業前の点検箇所は 14 ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照して下さい。なお、初回運転前は必ず下記点検項目を全て行って下さい。

### 1 エンジンオイル

エンジンを水平にしてオイルを点検し、不足している場合は補充して下さい。(図 1)  
エンジンオイルは下記の表に記載されている物を使用して下さい。

	温度	使用オイル (SE 級以上)
夏	25℃以上	SAE#30
春・秋	25 ~ 10℃	SAE#30、#20
冬	10 ~ 0℃	SAE#20
	0℃以下	SAE#10

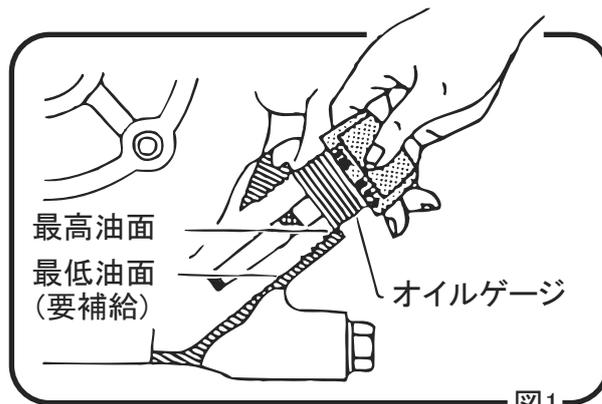


図1

### 2 燃料

燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用して下さい。燃料補給は、必ずエンジンを停止させ、補給口に装着してあるコシ網を使用して下さい。また、こぼれたら綺麗に拭き取って下さい。

### 3 V-ベルト

V-ベルトの緩み及び損傷を点検して下さい。張り具合は両軸の中間部を指で強く押して10mm位たわむように張ってあれば正常です。張りが不足している場合は張り直し、交換する場合は2本とも交換して下さい。交換品の使用可能な物は補充部品としてご使用下さい。ベルトの調整はエンジンを前後にスライドさせて行います。

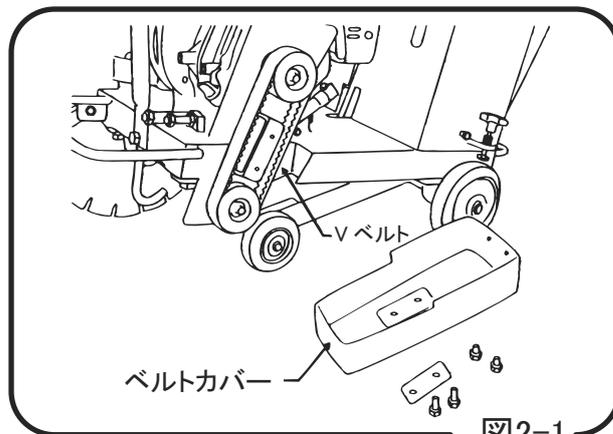


図2-1

### ベルト調整方法

A ボルト 4 本を取り、ベルトカバーを外します。(図 2-1)

B エンジン取付ボルト 4 本を緩めます。(図 2-2)

注意：ボルトは緩めるだけで外さないでください。

C ベース前方にあるベルトテンション調整ボルト&ナットでベルトの張力を調整します。時計方向に回すとベルト張力が増します。(図 2-2)

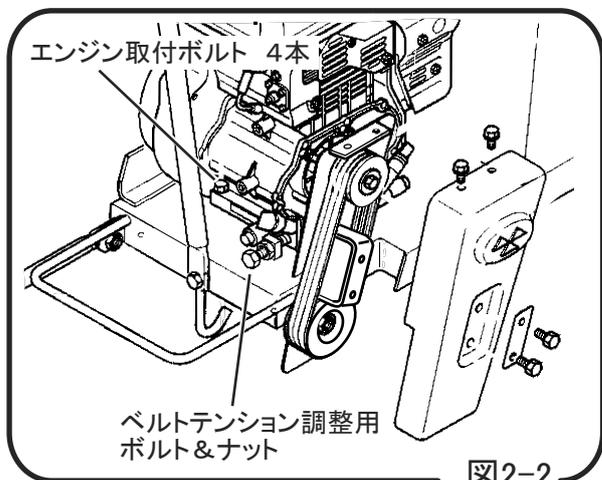


図2-2



8 各操作ハンドルを動かし、きしみやガタが無い  
か点検して下さい。

9 ボルト・ナットの緩みや異常ながたつき等が無  
いか点検して下さい。

10 駐車ブレーキ

左の後車輪には駐車ブレーキが付いています。  
ノブを右(時計方向)に回すとブレーキがかかり、  
左へ回すとブレーキが解除されます。作業前  
にはブレーキを解除して下さい。(図7)

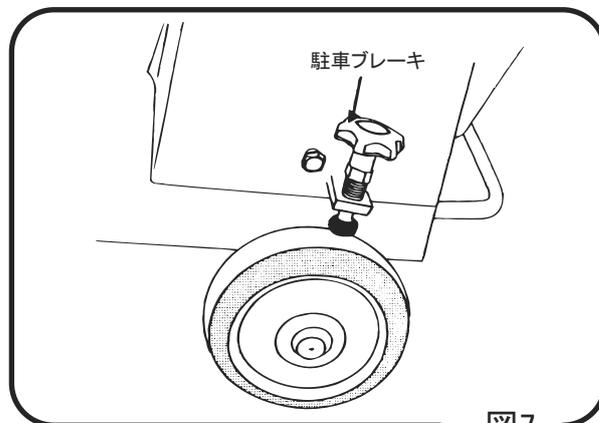


図7

11 切削深さの読取方法

切削深さは、回転の中心であるブレード軸の真  
下で地表に接した位置(読取位置)からブレ  
ードの先端である外周までの距離です。  
アスファルト又はコンクリートをダイヤモンドブレ  
ードで切り込んだ時、ブレードの側面には回転の  
筋跡(筋の軌跡)ができます。  
切削深さの読み取りは、読取位置にある筋の軌  
跡を辿ってブレードカバーに貼り付けられたゲー  
ジにて外周との距離を読み取って行います。  
(図8)

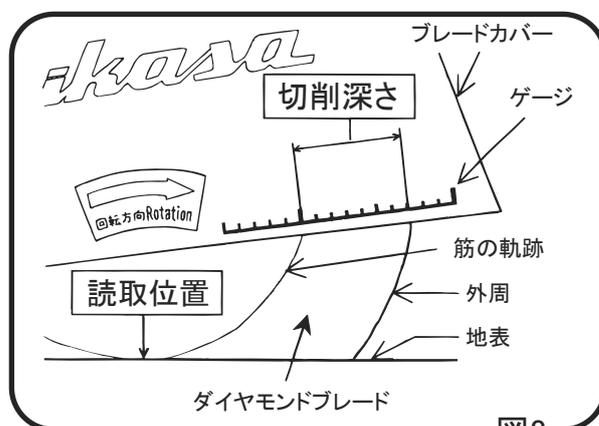


図8

# 8. 運転

## 8-1 始動

- 1 燃料コックのレバーを下にして、燃料を通します。  
(図 9)

**警告** エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。  
換気が悪い所では使用しないで下さい。

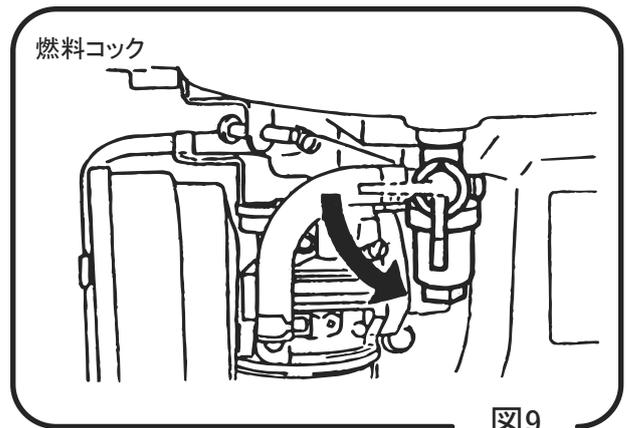


図 9

- 2 ストップスイッチを ON(I) 側に回します。(図 10)

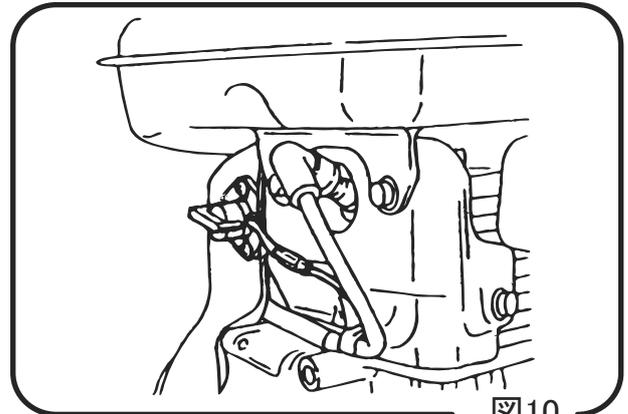


図 10

- 3 気化器のチョークレバーを閉じ、スロットルレバーを半開にします。  
うまく始動しなかった場合、いつまでもチョークを全閉のままにしておきますと燃料の吸い込み過ぎとなりますので半開にして下さい。(図 11)

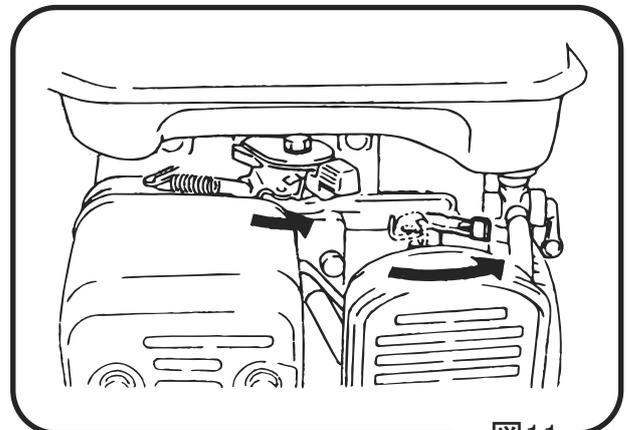


図 11

- 4 リコイルスターターノブを握り、少し引くと軽く手応えがあります。そこから勢い良く引っ張って下さい。この時、ロープをあまり引っ張り過ぎますとロープを引き抜くおそれがありますからご注意下さい。(図 12)

**危険** エンジン始動と同時にブレードが回転しますので、接触しないよう充分注意して下さい。

**注意** エンジンが始動したら、リコイルスターターノブは引っ張った位置で離さずにゆっくり戻して下さい。リコイルロープが戻る勢いでリコイルスターターノブがエンジンに当たり、故障や破損の原因になります。

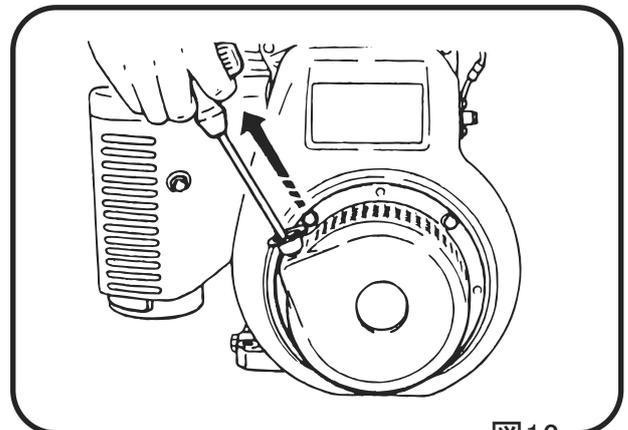


図 12

- 5 エンジンが始動したら、爆発音を聞きながらチョークレバーを戻し全開にします。  
始動後は必ず3～5分間低速で暖機運転を行います。特に寒冷時は必ず実行して下さい。この間にガス漏れ等異常が無いか確認して下さい。

## 8-2 作業

- 1 切削ゲージを切断面に合わせます。線合わせの際、機体を起こして行うと簡単にできます。(図13)

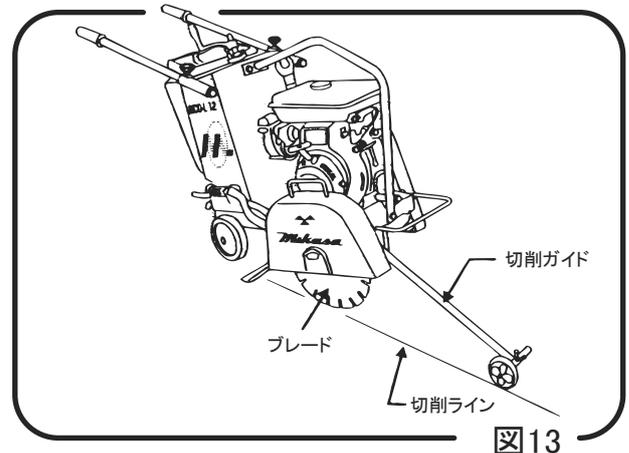


図13

- 2 水タンクの散水コックを開き、ブレードに冷却水を噴射して下さい。冷却水は少なくとも5～6L/分位必要です。目安としては、水が流れ落ちない程度に噴霧状に飛散している位であれば充分です。水量はコックで調整して下さい。水量に余裕がある時は、水量の多い方がブレードを傷めません。(図14)

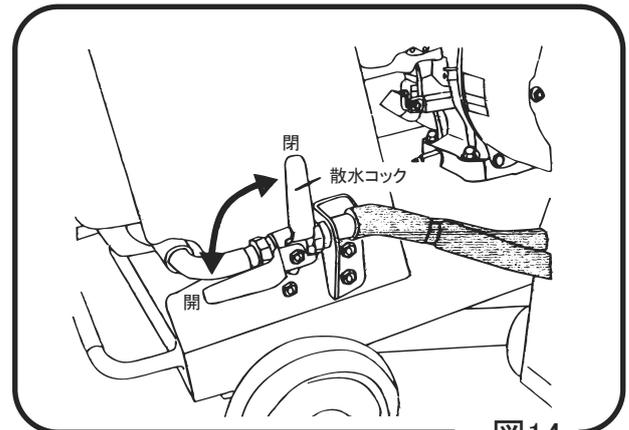


図14

- 3 スロットルレバーを徐々に開き、エンジン回転数を高速にセットします。

- 4 本機を下降させてブレードで切削を始める時は、本機中央にあるクランクハンドルを右(時計)方向に回し、エンジン回転数が低下し過ぎない速度で切り上げて下さい。所定の切削深度に達しましたら、クランクハンドル下部のつまみで昇降をロックして下さい。(図15)

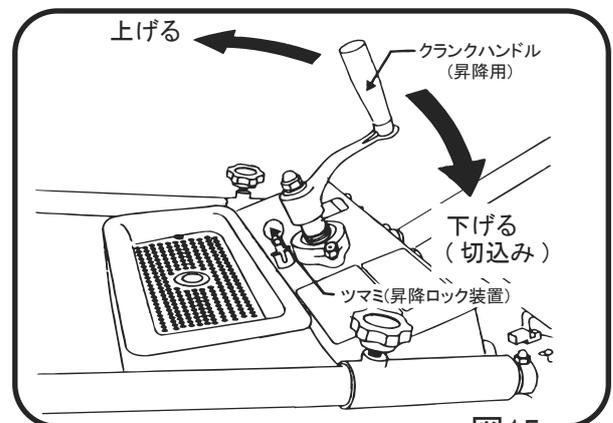


図15

**注意** 急激な切込み・切削はブレードの破損やエンジン・V-ベルト等の耐久性を損なう恐れがあります。

- 5 エンジン音を聞きながらゆっくりと機体を押し切削して下さい。

## 9. 停止

- 1 切削が終了したら、昇降ハンドルを反時計（左）方向にゆっくり回して機体を上げて下さい。
- 2 水コックを閉じて冷却水を止めて下さい。
- 3 スロットルレバーを戻してエンジン回転数を下げ、2～3分程エンジンを回してエンジンの温度が下がってから、ストップスイッチをOFF(O)側に回して下さい。
- 4 燃料コックを閉じます。

**⚠ 注意** スロットルレバー操作時、マフラーが高温になっているので接触しないよう充分注意して下さい。  
切削直後は機体各部が高温になっていますので火傷等に充分注意して下さい。

## 10. 輸送

<b>⚠ 警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●一点吊フックの破損、ネジの緩み、脱落が無く安全である事を確認して下さい。</li><li>●吊り上げの際は必ずブレードを取り外し、エンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。</li><li>●ハンドル部での吊り上げは絶対に行わないで下さい。</li><li>●強度が充分で、キンクや型崩れの無いワイヤーロープを用いて下さい。</li> <li>●真っ直ぐに衝撃をかけないように吊り上げ、吊り上げた機械の下には絶対に人や動物が入らないようにして下さい。</li><li>●安全のため、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。</li></ul>	
-------------	--	--

### 10.1 積み込み、積み下ろし

クレーンによる積み込み・積み下ろし作業はクレーン・玉掛けの資格が必要です。

- 1 本機の積み込み積み下ろしはクレーン等で行って下さい。
- 2 積み込み積み下ろし作業の際は指揮者を決め、必ず指揮者の指示により作業を行って下さい。
- 3 吊り上げの際は必ず一点吊りフックに吊り上げ具を引掛けて下さい。ハンドルに吊り上げ具を引掛けての吊り上げは絶対に行わないで下さい。

### 10.2 運搬に関する注意事項

<b>⚠ 警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。</li><li>●運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。</li><li>●機械が動いたり、倒れたりしないようしっかり固定して下さい。</li></ul>	
-------------	---	--

# 11. 保管

---

- 1 各部のゴミや泥等を水洗いして落として下さい。
- 2 水タンク、配管内の水は抜いて下さい。
- 3 ブレードシャフトのブレード取付部には清掃後に油を塗布して下さい。
- 4 ゴミや埃がかからないようにカバーをかけ、直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納して下さい。
- 5 作業終了後長期保管を行う場合は
  - ①燃料タンク、燃料パイプ、気化器の燃料を抜き取って下さい。
  - ②給油、オイル補充・交換をもれなく行って下さい。点火栓を外してエンジンオイルを数滴シリンダー内に流し込み、数回手回して内部に充分行き渡らせて下さい。
  - ③リコイルスターターを引き圧縮のある所で止めて下さい。
  - ④エアクリーナー、マフラーの吸入口及び排気口をしっかりと覆って下さい。
  - ⑤屋外に放置せず、屋内に格納して下さい。
  - ⑥本機を横倒しにして保管しないで下さい。

# 12. 定期点検と調整

## 1. 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、燃料の劣化、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	エアクリーナー	スポンジの埃	
	ブレード	傷、破損	
	昇降装置	機能確認、油脂	グリス
	一点吊フック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20 時間毎	エンジンオイル	初回のみ交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	昇降装置		
	昇降ネジ（図 16） ピローブロック（図 17）	傷、曲がり、給脂 給脂	グリス グリス
200 時間毎	V ベルト	傷、張り	
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント ピローブロック	交換 磨耗、異音、がたつき	

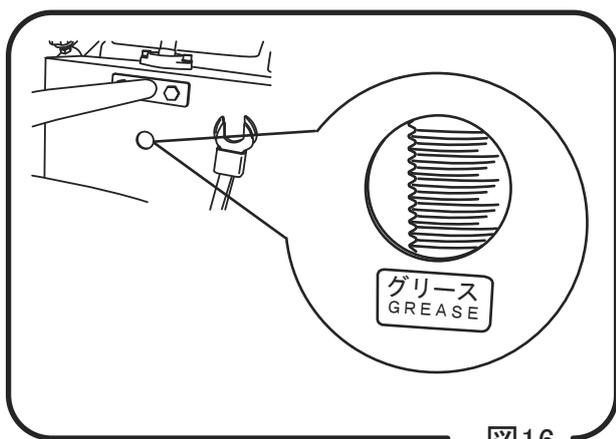


図16

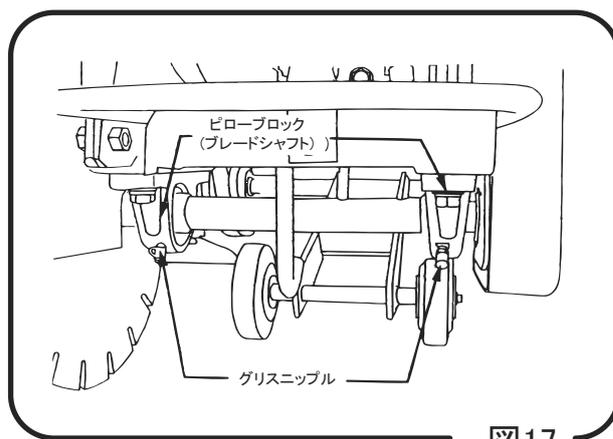


図17

エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照して下さい。

注) 上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なりますので御注意下さい。

ボルト・ナット類の増し締め等を行う際は、下記締付トルク一覧表に従って下さい。

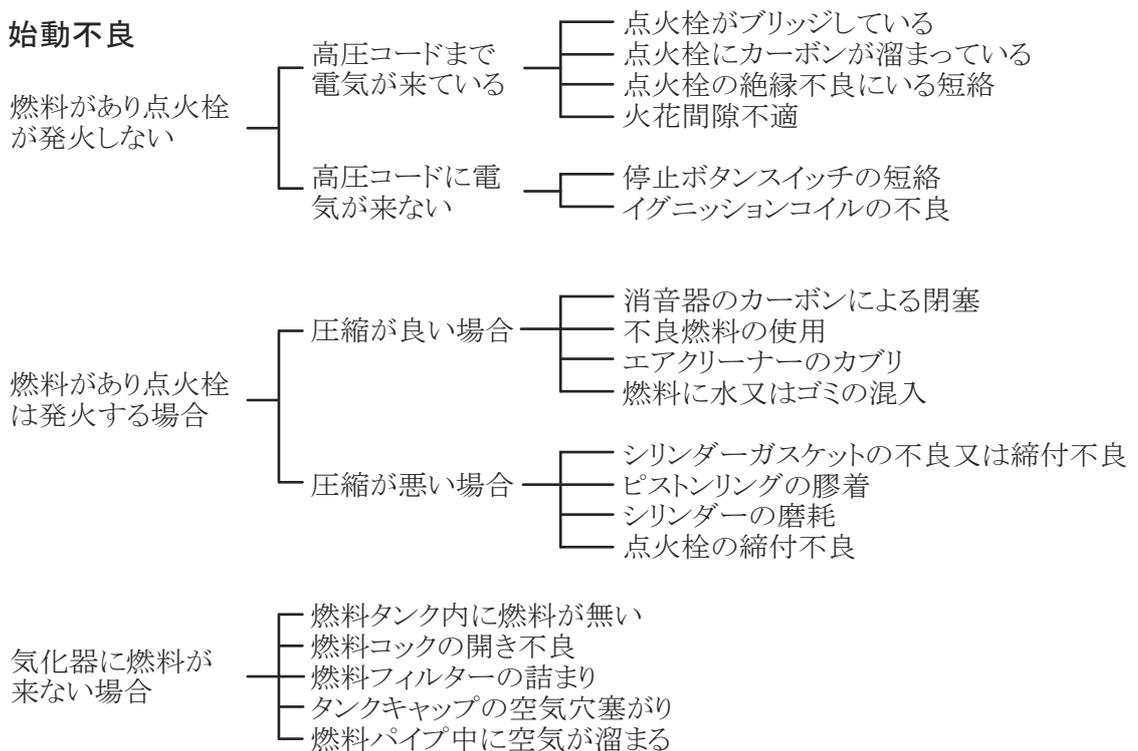
### 締付トルク一覧表（単位：kgf・cm、1kgf・cm=9.8N・cm）

		ネジ径							
		6mm	8mm	10mm	12mm	14mm	16mm	18mm	20mm
材質	4T(SS41)	70	150	300	500	750	1,100	1,400	2,000
	6-8T(S45C)	100	250	500	800	1,300	2,000	2,700	3,800
	11T(SCM3)	150	400	800	1,200	2,000	2,900	4,200	5,600
	相手材質がアルミニウムの場合	100	300~350	650~700	(本機に使用しているネジは全て右ネジです。)				

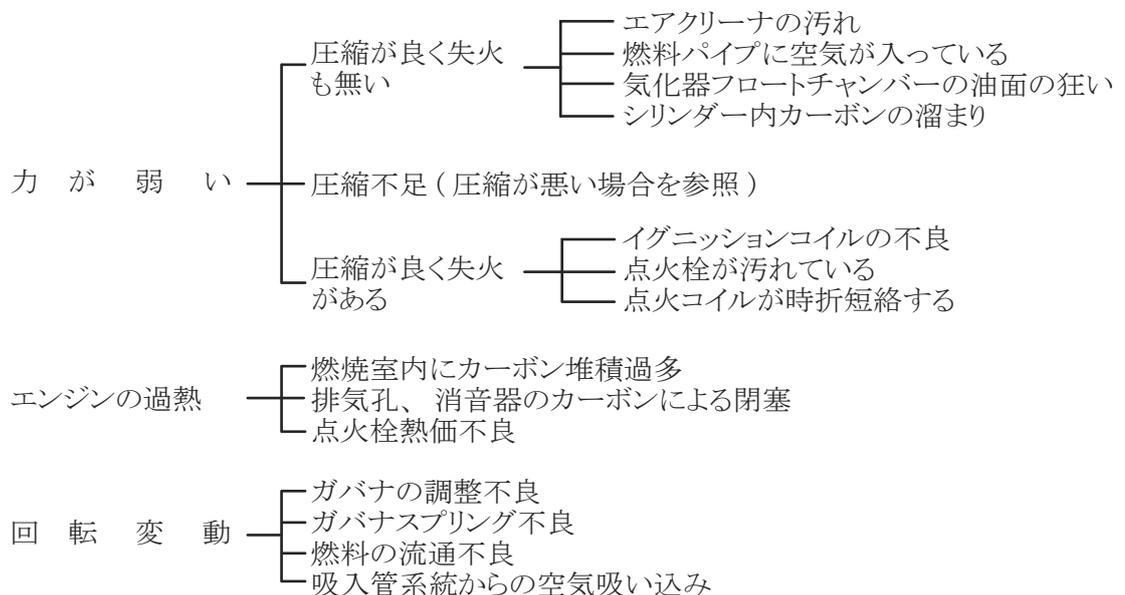
# 13. トラブルシューティング

## 13-1 エンジン

### 13-1-1 始動不良



### 13-1-2 運転不調

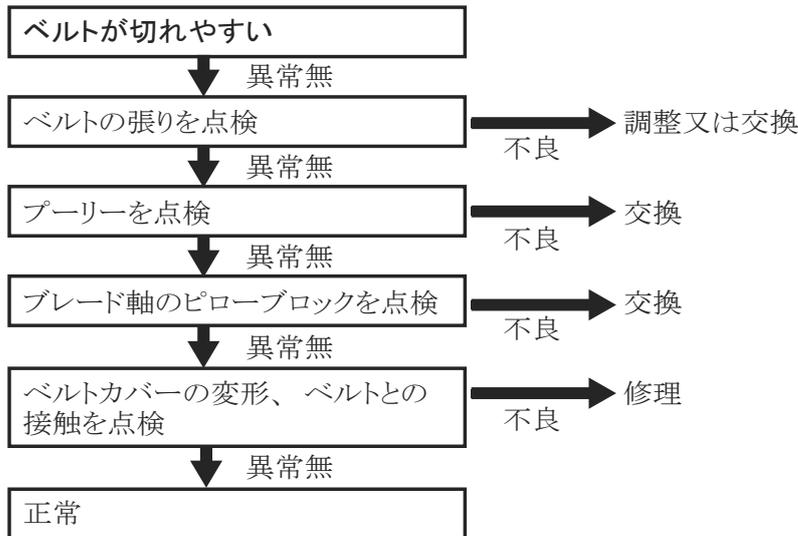
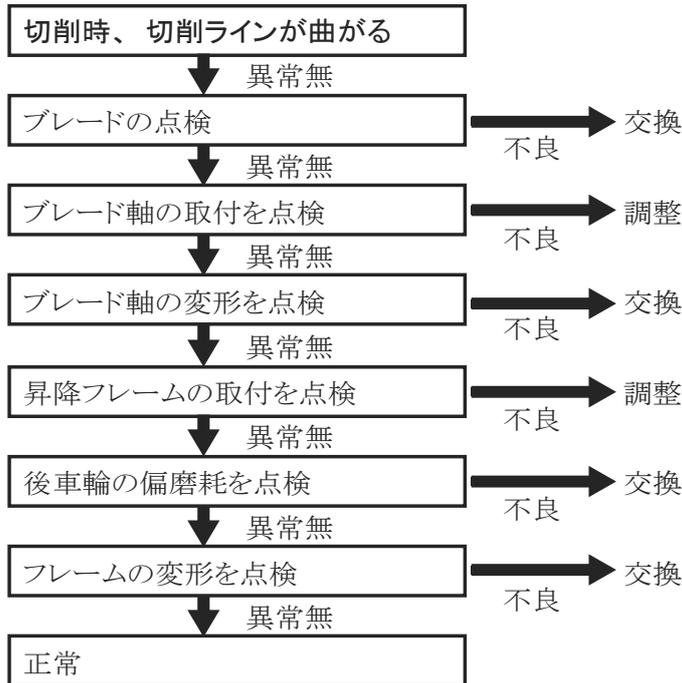


13-1-3 リコイルスターターの動きが悪い ————  回転部のゴミ詰まり  
 スパイラルスプリングのへたり

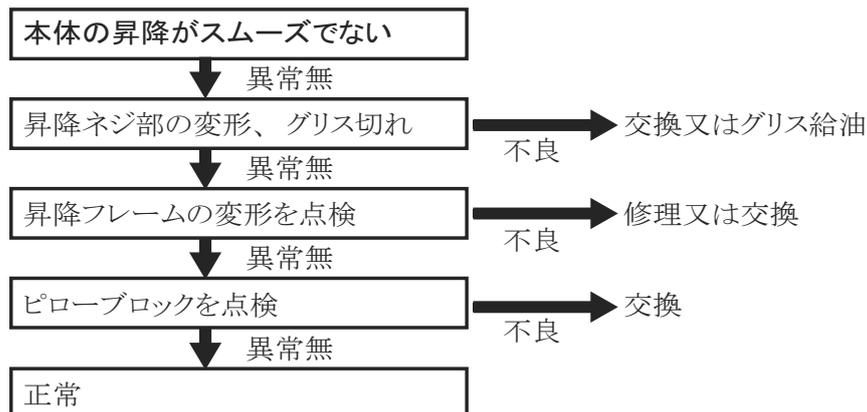
# 13. トラブルシューティング

## 13-2 本機

### 13-2-1 ブレード系



### 13-2-2 昇降系









# MIKASA SANGYO CO., LTD.

HEAD OFFICE  
No.4-3, Sarugakucho 1-chome,  
Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064,  
Japan

## 三笠産業株式会社

本 社	〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1丁目4番3号 電話 03-3292-1411 FAX 03-3233-0530
大 阪 支 店	〒577-0016 東大阪市長田西3丁目1-23 電話 06-6745-9631 FAX 06-6745-9660
札 幌 営 業 所	〒003-0030 札幌市白石区流通センター6丁目1番48号 電話 011-892-6920 FAX 011-892-6344
仙 台 営 業 所	〒984-0015 仙台市若林区卸町5丁目1番16号 電話 022-238-1521 FAX 022-238-0331
北 関 東 営 業 所	〒374-0042 館林市近藤町178番地 電話 0276-74-6452 FAX 03-3233-0530
中 部 営 業 所	〒453-0014 名古屋市東区則武1丁目9番4号 電話 052-451-7191 FAX 052-451-0315
中 国 営 業 所	〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目45番11号 電話 082-875-8561 FAX 082-875-8560
九 州 営 業 所	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南5丁目22番5号 電話 092-431-5523 FAX 092-431-5707

《出張所》

・新潟 ・長野 ・金沢 ・四国 ・南九州 ・沖縄

《部品サービスセンター》

	〒344-0053 春日部市緑町3丁目4番39号
部 品 課	電話 048-734-2401 FAX 048-736-6787
サ ー ビ ス 課	電話 048-734-2402 FAX 048-734-7678

・館林物流センター ・技術研究所 ・館林工場 ・春日部工場